

## 【文化財建造物の防火チェックリスト】

1. 建造物固有の特性			
屋根材料が可燃性である	はい	檜皮、こけら、茅など植物性材料	・可燃性の材料は、火の回りが早く、かつ一度着火すると鎮火までに時間を要します。そのため、近隣での火気の使用には十分気をつけ、火災の早期発見に努めることが重要です。
	いいえ	瓦、石板、銅板、鉄板など	・一部でも可燃性の屋根材料を使っている場合、上記を参考に対策を検討しておきましょう
構造が木造(可燃材)である	はい	木材など植物性材料	・木造の場合、火の回りが早いいため早期発見に重点をおくことを基本としましょう。特に外壁が木造の場合は、放火対策を講じることが必要です。また、消防機関が到着するまでの初期消火又は延焼拡大防止対策が重要です。
	いいえ	土蔵、石造、煉瓦造、コンクリート造など	・一部でも可燃性の材料を使っている場合、上記を参考に対策を検討しておきましょう
2. 敷地について			
建物の周囲に十分な空地がなく、消火活動等が困難な場合	はい	敷地いっばいに建物が建ち並び、空地がない	・敷地に十分な空地がない場合、消火活動の際の障害とならないよう整理整頓を心掛けましょう。 ・隣地家屋が近い場合は、延焼防止対策(防火壁の設置など)を講じることが重要です。
	いいえ	公園内や野外博物館等にある	・空地がある場合、警戒が十分に行き届かない箇所があるかもしれません。死角になる場所あるいは時間がないよう今一度警戒態勢を見直しましょう。
3. 活用する人の属性			
不特定の人、あるいは多数の人が利用する	はい	・参拝者や観光客が多く訪れる施設 ・学校施設や公会堂等	・実際の利用者の属性や人数に応じた避難計画を策定しておくことが重要です。
	いいえ	基本的に非公開で特定の人のみが利用する	・今一度、避難経路などを確認しましょう。
4. 火気の使用について			
宗教行事等で裸火を使用する	はい		・火気使用時の監視体制を強化しましょう。 ・火気を使用した後は、後始末を完全に行いましょう。
	いいえ		

5. 通常の管理体制について			
管理者が不在(あるいは少人数)である	はい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常勤している職員等がない。</li> <li>・常勤しているが、高齢者のみである等災害時の初動体制が取れない可能性がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理の実態に応じた防火対策とすることを基本とします。死角となる場所あるいは時間がある場合は、その状態を適切に把握し、実際の管理体制(人数等)に応じた対策をとりましょう。</li> <li>・火災時の初動体制をとることが困難な場合は、設備等を自動化して、補完することも手段の一つです。</li> <li>・周辺地域と協力して、地域の消防力を高め、災害を発生させないように努めましょう。</li> </ul>
	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、見回り等を行いましょ。</li> </ul>
昼間や夜間など管理体制が異なる	はい	夜間には無人(あるいは少人数)になる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理の実態に応じた防火対策とすることを基本とします。死角となる時間あるいは箇所がある場合は、その状態を適切に把握し、実際の管理体制(人数等)に応じた対策をとりましょう。</li> <li>・火災時の初動体制をとることが困難な場合は、設備等を自動化して、補完することも手段の一つです。</li> <li>・周辺地域と協力して、地域の消防力を高め、災害を発生させないように努めましょう。</li> </ul>
	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、夜間の見回り等を行いましょ。</li> </ul>
6. 防火設備の点検について			
定期的に点検をしている	はい		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定められている点検(法定点検)に加え、自主的な点検も実施しましょ。</li> </ul>
	いいえ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に点検を行い、機能不全、機能停止等が発生した場合には、早急に改修し、常時作動できるようにしておきましょ。</li> <li>・工事などでやむを得ず防火設備を停止する場合には、事前に関係者や関係機関に連絡し、十分に注意しましょ。</li> </ul>
7. 建造物内部の収蔵物について			
重要文化財等の美術工芸品を収蔵している	はい	彫刻、襖絵などの絵画を収めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部に収蔵している美術工芸品の特性を把握したうえで、建造物と美術工芸品の双方の保護を基本として防災対策を検討しておきましょ。特に火災等の災害時に搬出できない場合は、美術工芸品の保護方法も検討しましょ。</li> </ul>
	いいえ		